

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03478

研究課題名（和文）三都の巨大都市化と社会構造の複合化に関する基盤的研究

研究課題名（英文）Fundamental Research on the Formation, Expansion, and Composite Social Structure of the Three Early Modern Japanese Megacities

研究代表者

塚田 孝（Tsukada, Takashi）

大阪市立大学・大学院文学研究科・客員教授

研究者番号：60126125

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,900,000円

研究成果の概要（和文）：1970年代以降、3段階の展開を遂げてきた日本近世の都市社会史研究の現段階に立って、日本近世が産み出した巨大都市である三都（大坂・江戸・京都）を対象に、各都市の固有の社会構造の解明とともに、その通有性を抽出することを目的に、次の3つ方向から共同研究を進めた。第1に、巨大都市化の特質が集約的に表出する都市周縁部を中心に複合的な社会構造を解明した（ ）。第2に、三都を往来する人とモノ〔すなわち三都を結ぶ要素〕に着目してその固有性を浮かび上がらせた（ ）。第3に、海外の研究協力者の協力も得て、日本近世都市の世界史的な位置づけを考える比較史の議論を組織した（ ）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

共同研究の成果を『シリーズ三都』（江戸巻・京都巻・大坂巻）としてとりまとめた。中世から近世への展開、さらに近代へ展望の視野を持ちつつ、支配と社会 町方の社会 民衆世界の諸相 に分けて都市社会構造を解明し、さらに 三都を結ぶ 要素に関する論文、巨大都市の 周縁へ 視線を上げた論文を全巻に配し、巨大都市の全体史を大きく発展させた。

その中で、改めて都市の基礎単位たる「町」の再検討、周辺村方史料から巨大都市を照射する必要性と可能性が浮かび上がらせたこと、そこから、日本近世が膨大な史料を残してきた点に着目し、史料と社会 の視角から国際的な比較史を提起したこと、学術上大きな意義がある。

研究成果の概要（英文）：The development of early modern urban social history since the 1970s can be divided into three stages. Working from the present stage, this project aimed to elucidate the distinct socio-structural features and common characteristics of the three early modern Japanese megacities of Osaka, Edo, and Kyoto by focusing on three collective research themes. First, it clarified the composite social structure of the early modern megacity by focusing on its margins, where the distinct features manifest in large-scale urban development are heavily concentrated ( ). Second, it illuminated the unique character of the three cities by examining the movement of goods and people between them ( ). Third, with the assistance of overseas collaborators, the project fostered a comparative historical discussion in which researchers considered the place of the early modern Japanese megacity in global history ( ).

研究分野：日本史

キーワード：三都 巨大都市 都市社会構造 周縁性 比較史

## 1. 研究開始当初の背景

日本近世の都市史研究は、1970年代に都市住民生活の基礎単位である「町」とそれを構成する町屋敷（家屋敷）への着目によって、それまでの都市の全般的・階層的把握から、都市の社会構造に踏み込んだ研究へと大きな飛躍を遂げた。その後の近世都市史研究は、1970～80年代（第1段階）、1990～2000年代（第2段階）を経て、現在、第3段階に入りつつあると考えられる。

第1段階は、京都と江戸を主たるフィールドに展開した。その契機は、朝尾直弘による、近世社会の基礎には「村」と「町」があり、それは独自の法（村法・町法）をもち、自律的な運営を行う共同組織であるとの指摘であった。これを受けて京都における「町」や町組の研究が大きな進展を見せた。一方、江戸においては吉田伸之の研究に主導されながら、「町」と大店をめぐる社会関係、市場社会の構造、分厚く展開する日用層の存立構造などが次々と解明されていった。

日本近世は、人口数十万～百万人規模の巨大都市を産み出した「都市の時代」であった。第1段階の研究は、江戸と京都をフィールドとしたため、即自的に巨大都市研究としての性格を持ったが、この段階では、大坂も含めた三都の社会構造に言及する場合には、都市の巨大化によってもたらされる通有性が着目された。

1990年代に入ると、2つの側面から研究状況が大きく展開していく（第2段階）。1つは、地方の小城下町→人口数万人程度の中大規模の城下町→巨大城下町という城下町の発展段階の中に巨大都市：三都を位置づけることで、三都の巨大性を相対化して捉える視野が拓けたことである。2つ目は、1990年代以降、大坂の都市社会史研究の進展によって、巨大都市としての通有性とともにもそれぞれの社会構造の固有性が浮かび上がってきたことである。これにより、それぞれの都市（特に江戸と大坂）に即して、藩邸（蔵屋敷）社会、寺院社会、大店と表店の位相、市場社会、遊廓社会、芝居地、かわた村と非人仲間などの様々な都市内社会の複合構造（分節構造）が明らかにされていった（吉田『伝統都市・江戸』東京大学出版会、2012年、塚田『都市社会史の視点と構想』清文堂出版、2015年など）。

こうした中で、三都それぞれに固有の社会構造を前提にしながら、地方都市（城下町）とは質を異にする三都の巨大都市としての特質も顕著であることが自覚され、改めてその意味を問うことが課題として浮上してきている（第3段階）。その際、とくに都市の巨大化がもたらす周縁的な社会構造の複合化に着目することが重要となろう。

また2000年代に入って各分野で国際交流の進展が著しいが、日本の近世都市とアジア・ヨーロッパの諸都市との比較史的な研究交流が進められた。ヨーロッパ諸国がインドや（南北）アメリカ大陸で建設した植民地都市（奴隷も含む貿易の拠点でもある）が、同時代の城下町と通じる要塞都市であったと指摘されている（ダニエル・ボツマン「カースト制度と身分制度」『部落問題研究』195、2011年）。また、中国の明・清帝国やオスマン帝国といったアジアの世界帝国でも巨大都市が形成された。一方で、日本の三都は、幕藩制アウタルキーの下で巨大都市化した。日本における巨大都市の形成という自覚に立つとき、その条件と特質を明らかにし、世界的に位置づけることが求められるのである。

## 2. 研究の目的

以上のような研究動向を踏まえて、三都それぞれに固有な社会構造の把握を基盤とし、人口数万人規模以下の地方城下町とは質を異にする巨大都市としての特質とその意義の問い直すことをめざす。具体的には、三都の固有性と通有性を念頭に、次の3つの課題を設定し都市社会構造の分析を進める。第1に、都市拡大のプロセスとそれを支える論理、およびそれが社会構造の複合化に与える影響を解明する（ $\alpha$ ）。第2に、三都を往来する人とモノすなわち三都を結ぶ要素に着目してその固有性を浮かび上がらせる（ $\beta$ ）。第3に、日本近世都市の世界史的位置づけを明らかにする（ $\gamma$ ）。

## 3. 研究の方法

研究目的を実現するため、以下の3つの方向からの共同研究を組織する。

（ $\alpha$ ）都市拡大と社会構造の複合化 都市の巨大化は、中心部での高密度化と外延部への拡大の両面から進行するが、本研究では、現在の研究状況をふまえ、後者に焦点をしぼる。既存の王朝都市が基盤となった京都（安堵型）と、新たに創出された江戸・大坂、さらに同じ創出型の江戸・大坂の間でも、都市の外延的拡大の論理とその結果は一樣ではない。江戸では、17世紀は火除け地と武家（屋敷）地の確保が拡大につながったが、近世を通じて基本的には代官支配所や寺社境内などに広がった町場（中世以来独自の門前領域を形成した浅草や宿場町を含む）の包摂によって拡大した。一方、大坂では、道頓堀周辺からその後の諸新地に至るまで、開発（請負）による拡大という性格が一貫しており、その開発地を繁栄・振興させるための「所賑い」の論理が幕末まで強く機能し続けたと想定される。

以上を念頭に、三都の外延的拡大の論理と拡大地域における具体的な社会構造を、近代都市への展望をもちつつ、明らかにする。対象地域は、大坂では道頓堀周辺、堀江、難波新地（難波村）を、江戸では浅草と品川を、京都では六条新地、大仏前など妙法院周辺地域を取り上げる。それ

ぞれの地帯について、①包摂される側の地域の立場も視野に入れ、拡大のプロセスとその論理の解明、②外延的拡大がもたらす周縁的な社会構造（遊廓・擬似遊廓、芝居興行、舟宿などの流通業、交通運輸労働、零細諸商人、さらにその外縁に展開するかわた町村と非人集団など）の複合化の様相とメカニズムの解明を行う。既存の研究成果もふまえて、各都市・各地帯の相互比較と総合化を行う。

(β) 三都を結ぶ諸要素の分析 日本列島上に形成された巨大都市である三都の間には、大量の人・モノ・情報が往来した。それらは三都を結ぶ要素でもあるが、それ自体が三都の巨大化の所産でもある。こうした諸要素は、三都の固有の社会構造を浮かび上がらせ、その差異を明確化するいわばリトマス試験紙の役割を果たすものと言えよう。これらのうち、いくつかを戦略的に選択し（研究計画を参照）、三都のそれぞれのあり方を具体的に明らかにし、比較・検討する。

(γ) 世界史的位置づけ 基本的には、幕藩制アウタルキーの内部で巨大化した三都の世界史的位置づけを、近代都市への展開（欧米帝国主義との関連）も視野に、比較史的な共同討論の中で解明する。これまでの国際的な研究交流の基礎の上に立って、次の3つの方向から海外の専門研究者との比較史的な国際シンポジウムを組織し、日本近世都市の世界史的位置を明らかにする。すなわち、(1)フランス近世都市を中心としたヨーロッパ諸都市との比較、(2)インド、(南北)アメリカ大陸などの植民地都市との比較、(3)中華帝国（明・清）における世界帝国都市との比較である。

#### 4. 研究成果

##### (1) 『シリーズ三都』の刊行

研究代表者・分担者・連携研究者（のち主な研究協力者）を中心に、三都研究会を組織して(α)

(β) の課題を具体化するべく各人の個別テーマを深め、東京大学出版会から論集を刊行した。吉田伸之編『シリーズ三都 江戸巻』14人

〈近世へ〉中近世品川の都市的変容、〈I 権力と社会〉加賀藩邸と周辺社会／彦根藩世田谷領と江戸藩邸／幕臣屋敷と都市社会／増上寺の寺院社会と武家・民衆、〈II 町方の社会〉名主制度の成立／大店／硫黄の山方荷主／近代初頭の代議と地域、〈III 民衆世界の諸相〉修験と都市社会／非人集団の近代／駕籠舁、〈三都を結ぶ〉三都の浮世絵版画／人気役者の抱え方、〈周縁へ〉巨大城下町近郊地帯の海面秩序（吉田伸之）

杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』15人

〈近世へ〉近世都市京都の成立、〈I 権力と社会〉近世前期の武家社会と都市京都／幕府役人と享保期の改革／豪商三井の内紛と朝廷／女御入内の行粧と拝見、〈II 町方の社会〉町役人としての茶屋四郎次郎家／町方社会と三井／薬種流通と薬種屋仲間／明治初期の町と家持、〈III 民衆世界の諸相〉近世京都の寺社と非人／近世における洛中洛外図屏風の受容／六条村の成立過程／本山寺内町と真宗教団／明治維新と豊国神社の再興、〈三都を結ぶ〉三都の医師と医療環境、〈周縁へ〉東山・妙法院周辺の地域社会構造

塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』15人

〈近世へ〉豊臣期の大阪城下町、〈I 権力と社会〉大坂城の定番家臣団と都市社会／蔵屋敷の変遷／蔵屋敷からみる民衆世界、〈II 町方の社会〉種物問屋／砂糖仲買問屋の成立と展開／べか車の車主と車力／褒賞からみる町／町の近代化／近代大阪の町・町会・学区、〈III 民衆世界の諸相〉大坂天満宮と門前社地の運営／四天王寺と楽人／堀江新地における茶屋町／渡辺村の構造、〈三都を結ぶ〉音曲芸能者の三都、〈周縁へ〉道頓堀周辺の地域社会構造

全執筆者44人が執筆構想を研究会で報告し、課題を共有して成稿した。刊行時には、編者3人と都市空間史の伊藤毅が「時代と歩む都市史研究—『シリーズ三都』刊行にあたって—」をテーマに座談会を行い、研究史の中での本書の刊行の意義を確認した（『UP』2019年掲載）。さらに、コロナ感染症の蔓延で時期が遅れたが、2021年3月6日に書評会を実施した。

書評：中尾俊介「書評・シリーズ三都—社会=空間構造論の視点から—」

原直史「書評・シリーズ三都—商人と流通の視点から—」

編者からのリプライ

本シリーズによって、三都の複合的社会構造の解明は大きく進んだ。とりわけ、都市周縁部の地帯構造把握や三都を結ぶ要素の解明が進んだことが重要な成果である。同時に、今日的地平に立って、近世都市の基礎単位たる個別「町」の再検討する必要性が浮かび上がった。

##### (2) 共同の史料調査・分析

上記の三都研究会の取組みと並行して、共同の史料調査・分析を実施した。

- ・成舞家文書調査 成舞家文書には、大坂に南接する難波村の庄屋家に残されていた村方文書をテーマごとに編集した諸種の一件史料を大量に残されている。現在、大阪城天守閣に寄託されている同文書を調査・収集した（全8回）。
- ・橋本家文書調査 大坂・九郎右衛門町に居住し、明治初期には戸長を勤めた橋本家文書の調査を行い、一部収集した（全5回）。
- ・柏原家文書調査 京都の商家・柏原家に残された史料群を建築史グループと共同で調査した（8回）
- ・大坂町触を読む会 17世紀の史料を多数残している大坂・三津寺町関係史料のうち、大坂町奉行所からの町触を一点毎に〈法と社会〉の視点から精読していく研究会を9回開催し、17

世紀の大坂の町触を集成する作業を蓄積した。これは、近世大坂研究会の活動として、2003年以來蓄積してきたもの継続である。

- ・ 雛屋町「丁内諸用記」解説 大坂船場の南西に位置する雛屋町の町年寄天満屋六治郎の公務に伴う記録である「丁内諸用記」(全3冊)のうち1冊目を共同で翻刻作業を進めた。この記録は、町年寄の職務に伴う留帳の側面を持つとともに、天満屋六治郎の覚書という性格を合わせ持ち、町方史料では見えない局面を開示してくれるものである。

以上のような共同での史料調査・分析を通して、これまで〈法と社会〉の視角からの都市社会史の分析を進めてきた上に立って、〈史料と社会〉の視角からの都市社会構造の研究が重要であるという理解がもたらされた。それは、後述する国際的な共同の議論の中で、国際的な比較史において極めて重要であるという認識に達した。大坂の周縁部の道頓堀周辺の社会構造を解明する史料群として、成舞家文書や橋本家文書の調査を行ったが、そこから都市周辺の村方史料から巨大都市を照射する分析視角・分析方法の可能性が浮かび上がってきた。

### (3) 円座 (シンポジウム)

研究の進展を集約し、共有する場として、また新たな課題を見出す場として、以下の円座 (シンポジウム) を開催した。

#### 小円座 (1セッションのシンポジウム)

- ・ 2016年7月17日円座「近世大坂における神社と都市社会」(大坂天満宮と生玉社)  
報告: 木浦美里「大坂天満宮をめぐる社会的諸関係—六月祭礼を中心に—」  
山下聡一「生玉神社の社家仲間と家」  
コメント: ヤニック・バルディ
- ・ 2017年1月28日小円座「大坂の都市開発/道頓堀/国際交流」  
報告: 八木滋 「近世大坂の都市開発と道頓堀・その周辺」  
ジョン・ダミコ「アメリカでの日本史研究の可能性—卒論の経験から—」  
コメント: 塚田孝
- ・ 2017年6月17日国際小円座「身分制と賤民—越前大野・和泉・寺院社会—」  
報告: マーレン・エーラス「身分制と賤民—越前大野・和泉・寺院社会—」  
コメント: 山下聡一・三田智子
- ・ 2018年7月16日国際小円座「近世巨大都市の身分的周縁—大坂と江戸—」  
報告: ヤニック・バルディ「近世における神社と地域社会—大坂と泉州の事例から—」  
ポーター・ジョン 「近世身分制の解体と斃獣処理」
- ・ 2018年12月16日小円座「近世大坂の都市史研究の基盤形成—史料・人・歴史像—」  
報告: 内田九州男「近世大坂の都市史研究の基盤形成—史料・人・歴史像—」
- ・ 2019年2月24日小円座「近世京都の都市社会の拡大」  
報告: 渡辺祥子「京都の薬種流通と薬種屋仲間」  
寺内由佳「京都商人の宇都宮出店—呉服太物商・奈良屋の事例をもとに—」  
杉森哲也「六条村の成立と移転」

#### 円座 (複数のセッションから構成されるシンポジウム)

- ・ 2017年3月10・11日イェール大学国際円座「都市の巨大化と民衆世界」  
セッション1「パネル・ディスカッション: 世界の中の日本の近世都市」  
(パネラー: 塚田孝 [日本史] / 吉田伸之 [日本史] / Erik Harms [ベトナム史] / Peter Perdue [中国史] / 司会 Daniel Botsman [日本史])  
セッション2「都市開発」 / セッション3「大坂の民衆世界」 / セッション4「江戸の都市社会」 / セッション5「都市の周縁と民衆世界」(セッション2~5の報告9本・コメント9本)
- ・ 2018年1月20・21日中間総括円座「近世・近代巨大都市の比較史—史料と社会—」  
セッションI「大坂・道頓堀「地帯」の史料と社会」  
報告: 吉元加奈美「成舞家文書・橋屋文書調査の紹介」  
塚田 孝「道頓堀の芝居地・垣外・墓所」  
神田由築「明治期大阪役者の出稼」  
セッションII「上海都市史研究における史料と社会」  
報告: 馬学強「新史料・新視野 上海都市史研究の現状とその展望」  
セッションIII「日仏近世社会史研究交流の“これまで”と“これから”」  
(パネラー: 高澤紀恵 / ギョーム・カレ / 後藤雅知)
- ・ 2018年12月1・2日上海社会科学院“中日城市史研究与比较”国际学术研讨会 (国際シンポジウム「日中比較都市史研究」) (報告: 中国側15人 / 日本側10人)  
第1・2場「城市史研究的史料与方法 (都市史研究の史料と方法)」(上・下)  
第3・4・5場「上海、大阪等城市的細部研究 (上海・大阪等都市の詳細研究)」(1・2・3)  
第6・7場「青年学者専場 (若手研究者発表)」(1・2)
- ・ 2019年9月7・8日国際シンポジウム「巨大都市の社会構造と史料—上海と大阪を中心に—」  
(育成事業「周縁的社会集団と近代」と共催)

#### Special Session

馬学強「近代中国における大学の街区形成と変遷—上海震旦大学および所属街区に関する考察—」

Session I・II「都市の社会と空間」(1・2)／Session III「都市の文化と社会」／Session IV「都市の民衆世界」／Session V「比較史・共同研究の可能性と史料」(セッション I～Vの報告、日本側 8 本、中国側 8 本)

#### (4) 出版

前記『シリーズ三都』のほか、以下の図書・報告書を刊行した。

- ・『近世大坂における神社と都市社会 (三都研究会円座報告書)』2017 年 2 月、都市文化研究センター刊  
2016 年 7 月 17 日開催の円座「近世大坂における神社と都市社会」報告・コメントと大坂天満宮関係史料、生玉社関係史料の翻刻を収録。
- ・『近世巨大都市の社会構造と史料 (三都研究会国際シンポジウム報告書)』2019 年 3 月、都市文化研究センター刊  
2018 年 12 月 1・2 日上海社会科学院“中日城市史研究与比较”国际学术研讨会(国際シンポジウム「日中比較都市史研究」)の日本側報告者の論稿を再編集したもの。
- ・『中日城市史研究論集』(城市史与人文遺産研究叢書)(主編：馬学強・塚田孝／副主編：佐賀朝・叶舟・張智慧)商務印書館、2019 年 9 月  
2018 年 12 月 1・2 日上海社会科学院“中日城市史研究与比较”国际学术研讨会のセッション構成を再現する形で学術書として中国で出版。
- ・『日本近世の都市社会と史料 (三都科研報告書)』2020 年 2 月、都市文化研究センター刊  
第 1 部「雛屋町「丁内諸用記」壺番の研究」／第 2 部「論考編」(論文 7 本)  
第 1 部は、共同で史料の翻刻・分析に取り組んできた雛屋町「丁内諸用記」1 冊目の翻刻と町内構造の分析を行った論文を収録。第 2 部は、共同で取り組んできた「大坂町触を読む会」での成果である〈法と社会〉の視角から大坂町触を論じた論考、および村方史料から都市社会を照射した論考を収録した。

以上のような、円座(シンポジウム)を開催し、その内容を図書・報告書として刊行することで、さらに(α)都市拡大と社会構造の複合化の解明、(β)三都を結ぶ諸要素の分析を進めるとともに、上海を中心とする中国の都市やフランス諸都市との比較史を進め、三都の(γ)世界史的な位置づけについて、議論を深めた。

その中で、今日的地平に立って〈町〉の構造を再検討すること、村方史料から巨大都市を照射することの可能性などを確認した。また、国際的な比較史を進める中で、日本近世の村や町、さらに多様な社会集団が膨大な文書を作成し、保存してきたことは世界史的に見ても稀有な状況であることが浮かび上がってきた。こうした文書の作成と残り方(残し方)は社会編成のあり方と表裏の関係にあるのであり、こうした〈史料と社会〉の視角からの国際的な比較史が有効であることが共有された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計70件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 伊藤毅・杉森哲也・塚田孝・吉田伸之	4. 巻 559
2. 論文標題 【座談会】時代と歩む都市史研究 『シリーズ三都』刊行にあたって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 道頓堀周辺の地域社会構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 303-330
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 褒賞からみる町	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 123-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 日本近世の非人身分と史料 大坂の垣外仲間に即して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 塚田孝・町田哲・三田智子編『日本近世の都市社会と史料（三都科研報告書）』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 都市大坂の拡張と難波村ー関于成舞家文書ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 55-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 日本近世社会的史料特征と聯合調査ー以大阪府和泉市為例ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 黄正建主編『中国古文書学研究初編』上海古籍出版社	6. 最初と最後の頁 422-439
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 -
2. 論文標題 巨大城下町近郊地帯の海面秩序	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉田伸之編『シリーズ三都 江戸巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 295-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 -
2. 論文標題 駕籠舁	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉田伸之編『シリーズ三都 江戸巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 247-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 -
2. 論文標題 町奉行所の市中取締官員与幕末の江戸社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 34-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻 -
2. 論文標題 六条村の成立過程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 251-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻 -
2. 論文標題 東山・妙法院周辺の地域社会構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 313-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻 -
2. 論文標題 近世京都市の商家史料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 -
2. 論文標題 蔵屋敷からみる民衆世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 -
2. 論文標題 岩国藩大坂蔵屋敷的設立与都市社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 288-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 -
2. 論文標題 近代大阪の町・町会・学区	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 161-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 -
2. 論文標題 19世紀90年代至20世紀30年代大阪市の町与町内団体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 255-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAGA Ashita	4. 巻 55
2. 論文標題 Lien social et societes locales dans les villes du Japon moderne. Les associations d'habitants et les travailleurs defavorises d'avant-guerre a Osaka	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Histoire urbaine	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田直樹	4. 巻 -
2. 論文標題 町の近代化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 135-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 IIDA Naoki	4. 巻 -
2. 論文標題 La modernisation des cho- d'Osaka	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Histoire urbaine	6. 最初と最後の頁 35-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻 -
2. 論文標題 大坂蔵屋敷与渡海限制 以近世前期的徳島藩為例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 180-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田智子	4. 巻 -
2. 論文標題 渡辺村の構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 253-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田智子	4. 巻 -
2. 論文標題 大坂渡辺村の村落結構	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 314-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田智子	4. 巻 -
2. 論文標題 代人規制から考える近世大坂の訴訟制度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 塚田孝・町田哲・三田智子編『日本近世の都市社会と史料(三都科研報告書)』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 98-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田智子・別曾和江	4. 巻 -
2. 論文標題 解題 雑屋町の「丁内諸用記」について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 塚田孝・町田哲・三田智子編『日本近世の都市社会と史料(三都科研報告書)』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神田由築	4. 巻 -
2. 論文標題 音曲芸能者の三都	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 277-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤雅知	4. 巻 -
2. 論文標題 近世后期攝津、丹波的寒天生産与大坂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強・塚田孝主編『中日城市史研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 301-313
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ポーター	4. 巻 -
2. 論文標題 非人集団の近代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉田伸之編『シリーズ三都 江戸巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 223-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ポーター	4. 巻 229
2. 論文標題 近世身分制解体期における家畜伝染病と斃獣処理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ポーター	4. 巻 -
2. 論文標題 近世中後期大坂における貧民救済と地域社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 塚田孝・町田哲・三田智子編『日本近世の都市社会と史料(三都科研報告書)』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 129-139
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 John PORTER	4. 巻 10
2. 論文標題 Panhandling, Subsistence, and Poverty Management in Meiji Tokyo	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Urban Scope	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三枝暁子	4. 巻 -
2. 論文標題 近世都市京都の成立	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤紘子	4. 巻 -
2. 論文標題 大坂城の定番家臣団と都市社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 13-39
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤紘子	4. 巻 -
2. 論文標題 御津八幡宮文書の町触にみる「町中御法度之事」の前提	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 塚田孝・町田哲・三田智子編『日本近世の都市社会と史料（三都科研報告書）』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 972
2. 論文標題 近世大坂の道頓堀周辺 非人垣外と水茶屋	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻
2. 論文標題 町奉行所市中取締掛と幕末期の江戸社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 3 - 17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻
2. 論文標題 近世京都の商家史料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 35 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻
2. 論文標題 ルイス・フロイスの見た16世紀の京都	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 浅見雅一・野々瀬浩司編『キリスト教と「寛容」 - 中近世の日本とヨーロッパ - 』慶應義塾大学出版会	6. 最初と最後の頁 69 - 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻
2. 論文標題 岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 43 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 町田哲	4. 巻
2. 論文標題 大坂蔵屋敷と渡海統制 近世前期の徳島藩を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 52 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤雅知	4. 巻
2. 論文標題 近世後期における摂津・丹波の寒天生産と大坂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 114 - 121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田智子	4. 巻
2. 論文標題 大坂渡辺村の村落構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院 文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 103 - 113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 5
2. 論文標題 居留地と遊廓社会 横浜・大阪・東京を素材に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 85 - 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻
2. 論文標題 近現代の大坂における社会的結合の解体と再編 町内会と下層労働力供給業を素材に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 塚田孝編『近世巨大都市の社会構造と史料』 三都研究会国際シンポジウム報告書 大阪市立大学大学院 文学研究科・都市文化研究センター	6. 最初と最後の頁 122 - 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 4
2. 論文標題 近世大坂の都市社会構造 孝子・忠勤褒賞から見る民衆世界	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 52 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 223
2. 論文標題 近世大坂の役木戸 明治初期・再設置出願を手掛かりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 40 - 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之・塚田孝	4. 巻 2 - 2017
2. 論文標題 Reflexions sur le statut de bourgeois a Edo et Osaka au XVIIe siecle	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 HISTOIRE, ECONOMIE & SOCIETE	6. 最初と最後の頁 80 - 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝・佐賀朝	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の都市社会史 近世・近代を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史科学協議会編 『歴史学が挑んだ課題 - 継承と展開の50年』 大月書店	6. 最初と最後の頁 241 - 270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 -
2. 論文標題 周縁から都市と身分を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高埜利彦編 『日本近世史研究と歴史教育』 山川出版社	6. 最初と最後の頁 29 - 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉森哲也	4. 巻 -
2. 論文標題 近世京都絵図に見る西橋町と周辺地域の変遷	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 柏原家文書研究会編『京都西橋町 柏原家の文書と建築』	6. 最初と最後の頁 14 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 -
2. 論文標題 近現代の大阪における社会的結合の解体と再編 町内会と下層労働力供給業を素材に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 釜山大学校韓民族文化研究所『都市と共生』	6. 最初と最後の頁 107 - 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 2 - 2017
2. 論文標題 Le Japon premoderne : une societe de statuts. Reflexions sur quatre decennies de debats	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 HISTOIRE, ECONOMIE & SOCIETE	6. 最初と最後の頁 4 - 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 4
2. 論文標題 近世大坂研究の軌跡と展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 84 - 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木滋	4. 巻 222
2. 論文標題 近世大坂・西道頓堀南側の開発過程	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 2 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ポーター	4. 巻 265
2. 論文標題 明治初期東京における町会所の解体と貧民救済 = 統制	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 163 - 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤紘子	4. 巻 -
2. 論文標題 京都店「清帳」の「有物」勘定について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 柏原家文書研究会編『京都西橋町 柏原家の文書と建築』	6. 最初と最後の頁 20 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 19
2. 論文標題 近世大坂の開発と社会 = 空間構造 道頓堀周辺を対象に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 市大日本史	6. 最初と最後の頁 65 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 -
2. 論文標題 近世大坂の非人集団の生存環境と家	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪市立大学都市研究プラザ編 『包摂都市のレジリエンス 理念モデルと実践モデルの構築 』	6. 最初と最後の頁 81 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻 3
2. 論文標題 「御城米」と江戸の湊	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 82 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田直樹	4. 巻 15
2. 論文標題 大阪における水帳の伝来と帳切の終焉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪歴史博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 33 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ジョン・ポーター	4. 巻 219
2. 論文標題 「賤称廃止令」発布後における浅草新町の再編過程に関する一考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 27 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計67件（うち招待講演 21件 / うち国際学会 41件）

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 日本近世の非人身分と史料 大坂の垣外仲間に即して
3. 学会等名 大阪市立大学・（国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業）総括シンポジウム 「アジア諸地域の社会・近代化・史料」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 道頓堀周辺の非人行き倒れ
3. 学会等名 第57回部落問題研究者全国集会分科会：歴史 「行き倒れからみる近世社会」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚田孝・佐賀朝
2. 発表標題 伝統社会と周縁の視点から見通す「現代」・「日本」 育成事業と合同調査の実践から
3. 学会等名 シンガポール国立大学・Department of Japanese Studies Workshop 《Understanding Social Groups of the Margins and Modernity》 （国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 近世大坂・千日墓所における非人行倒れ
3. 学会等名 上海大学・2019年度ワークショップ「日中都市史研究の新しい課題・方法・展開 周縁的社会集団と近代」（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 日本橋とCOREDO
3. 学会等名 Tokyo : Past and Present- Towards a "People's History" of the City; Japanese Studies Centre, Monash University, Melbourne (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 近世～近代移行期の居留地付き遊廓と都市社会 横浜・東京・大阪の比較から
3. 学会等名 上海大学・2019年度ワークショップ「日中都市史研究の新しい課題・方法・展開 周縁的社会集団と近代」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田直樹
2. 発表標題 近代大阪の「福祉」と民衆世界
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会2019年度大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田直樹
2. 発表標題 明治期大阪の棄児と孤児院：二つの愛育社をめぐって
3. 学会等名 大阪市立大学・(国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)総括シンポジウム「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 大坂蔵屋敷と渡海統制 近世前期の徳島藩と四国遍路
3. 学会等名 大阪市立大学・(国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)総括シンポジウム 「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神田由築
2. 発表標題 近世大坂の芝居と生業 - 貸衣裳を中心に
3. 学会等名 大阪市立大学・(国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)総括シンポジウム 「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 近世中後期大坂における貧民救済と地域社会
3. 学会等名 大阪市立大学・(国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)総括シンポジウム 「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 John Patrick Porter
2. 発表標題 Status, Property, and Wage Labor in the Early Modern Japanese City
3. 学会等名 American Historical Association 134th Annual Meeting, Sheraton New York (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤紘子
2. 発表標題 大坂城の定番屋敷と都市社会
3. 学会等名 大阪市立大学・(国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業)総括シンポジウム「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 Early Modern Japanese Cities and Villages ; a Look at Osaka and Izumi
3. 学会等名 オレゴン大学・国際シンポジウム「Building Osaka: Urban Dynamics Across Fifteen Centuries 大阪の歴史の再発見と新知見：千五百年の変遷を甦る」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 Considering the Meiji Restoration from Localities: Reflections based on the Izumi Region
3. 学会等名 シンガポール国立大学・国際シンポジウム「Revisiting Japan's Restoration Interregional, Interdisciplinary, and Alternative Perspectives」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 都市大坂の拡大と難波村 成舞家文書とは？
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較;”学术研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 Social Structure on the Margins of the Great City of Osaka: From the Records of the Narumai family of Namba Village
3. 学会等名 Yale-OCU Joint Seminar Series “Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia - Japan and the Ottoman Empire” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 町奉行所市中取締掛と幕末期の江戸社会
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”學術研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉森哲也
2. 発表標題 近世京都の商家史料
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”學術研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉森哲也
2. 発表標題 六条村の成立過程
3. 学会等名 三都研究会・小円座「近世京都の市社会拡大」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の成立
3. 学会等名 Yale-OCU Joint Seminar Series “Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia - Japan and the Ottoman Empire” （国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤雅知
2. 発表標題 近世後期における摂津・丹波の寒天生産と大坂
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三田智子
2. 発表標題 大坂渡辺村の村落構造
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 近代日本の民衆世界と都市社会構造 大阪を素材に
3. 学会等名 東アジア都市史学会 創立記念国際学術大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 World of Lower-level People in Pre-modern Osaka and Structure of Urban Society
3. 学会等名 オレゴン大学・国際シンポジウム「Building Osaka: Urban Dynamics Across Fifteen Centuries 大阪の歴史の再発見と新知見：千五百年の変遷を甦る」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 The World of the Pleasure Quarters in the Transitional Period from Early Modern to Modern Japan :Research on the Yokohama Pleasure Quarters
3. 学会等名 シンガポール国立大学・国際シンポジウム「Revisiting Japan's Restoration Interregional, Interdisciplinary, and Alternative Perspectives」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 1890～1930年代の大阪における町と町内団体
3. 学会等名 上海社会科学院城市人文遺産研究創新団体・上海社会科学院歴史研究所主催“中日城市史研究与比較”学術研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 Multi-Linear Trajectories of Modernizing on the Pleasure Quarters: Research on the Yokohama Pleasure Quarters
3. 学会等名 Osaka City University-University of Illinois Symposium “ Modernization ” ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 The Modernization of Prostitution in Yokohama from the Late Edo period to Early Meiji
3. 学会等名 Yale-OCU Joint Seminar Series “ Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia - Japan and the Ottoman Empire ” ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 Cattle Plague, Livestock Disposal, and the Dismantling of the Early Modern Status Order
3. 学会等名 シンガポール国立大学・国際シンポジウム「Revisiting Japan's Restoration Interregional, Interdisciplinary, and Alternative Perspectives」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 Poverty Management, Social Integration, and Subsistence in Meiji Tokyo The Meiji Restoration and Its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration
3. 学会等名 Yale-OCU Joint Seminar Series “ Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia - Japan and the Ottoman Empire ” ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 近世後期・大坂の警察機能の動向
3. 学会等名 日仏ワークショップ2017「日仏近世の秩序維持」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 日本の近世史料の特徴と合同調査 和泉における経験から
3. 学会等名 中国社会科学院歴史研究所主催：第6届「中国古文書学国際研討会」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 大坂における取締りと身分 明治初期・役木戸の再設置出願から
3. 学会等名 イェール大学シンポジウム The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 道頓堀の芝居地・垣外・墓所
3. 学会等名 三都研究会他共催：国際円座「近世・近代巨大都市の比較史 史料と社会」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 近世大坂の都市民衆世界 孝子・忠勤褒賞から
3. 学会等名 パリ第7大学研究会「近世日本社会史」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 近世日本の身分社会と秩序統制
3. 学会等名 リール大学シンポジウム「近世日本における社会集団と権力」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 海辺の近代化ー江戸(東京)近郊地帯を事例として
3. 学会等名 イェール大学シンポジウム The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 巨大都市江戸近郊の海辺と社会
3. 学会等名 海洋人文学研究所国際学術大会(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉森哲也
2. 発表標題 近世京都・妙法院領の新地開発とその地域構造
3. 学会等名 第55回部落問題研究者全国集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 維新変革と性売買問題 芸娼妓解放令を素材に
3. 学会等名 イェール大学シンポジウム The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 居留地と遊廓社会 横浜・大阪・東京を素材に
3. 学会等名 2017年度都市史学会大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 明治初期東京における町会所の解体と貧民救済 = 統制
3. 学会等名 大阪歴史学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 Poverty Management, Social Integration, and Subsistence in Meiji Tokyo
3. 学会等名 イェール大学シンポジウム The Meiji Restoration and its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 近世大坂の都市社会構造 孝子・忠勤褒賞から見る民衆世界
3. 学会等名 都市史学会2016年度大会「社会的結合と都市空間」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 "Kabuki Actors and Official Recognition of Merit during the Tenpo Reforms" (「大坂における歌舞伎役者の褒賞と天保改革」)
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in 'Early Modern' Japan : Session 2 Plebeian Lifeworlds and 'Early Modern' Osaka
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 "The social=spatial structure of the chonin districts of Edo and the topology of plebeian lifeworlds" (「江戸町人地の社会=空間構造と民衆世界の位相」)
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in 'Early Modern' Japan : Session 4 Urban Society in Edo
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 杉森哲也
2. 発表標題 “ Land Development on the Myohoin Estate in ‘ Early Modern ’ Kyoto ” （近世京都・妙法院領の新地開発）
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 3 Urban Development in Kyoto and Osaka
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 近世大坂研究の展開とその軌跡
3. 学会等名 都市史学会2016年度大会「社会的結合と都市空間」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 “ Domainal Warehouses and Plebeian Society in Osaka ” （蔵屋敷から見る大坂の民衆世界）
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 2 Plebeian Lifeworlds and ‘ Early Modern ’ Osaka
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 “ ‘ Cho ’ and the Regional Society in Early-Modern and Modern Osaka-with a Note on ‘ Yukaku-Society ’ (The Social Structure of Licensed Pleasure Quarters) ” （近世～近代大阪の「町」（ちょう）と地域社会；付論：近世～近代大阪の遊廓社会史）
3. 学会等名 Osaka City University-University of Illinois Symposium: Focus on Early-Modern & Modern History
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 “ Brothels and the Foreign Concessions- A Comparison of Osaka and Tokyo ” ( 居留地付き遊郭の比較史 東京と大阪を素材に )
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 5 Plebeian Lifeworlds and the Margins of the City
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 八木滋
2. 発表標題 “ Land Development and the Cho Communities of Osaka ” ( 大坂の都市開発と町 )
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 3 Urban Development in Kyoto and Osaka
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 町田哲
2. 発表標題 “ Portraits of Three Pilgrims- Plebeian Society in the late Edo period as viewed from the Shikoku Pilgrimage circuit ” ( 遍路をめぐる三つの肖像 近世後期の四国遍路からみた民衆世界 )
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 5 Plebeian Lifeworlds and the Margins of the City
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤雅知
2. 発表標題 “ The transportation of firewood and coal in the late Edo period ” ( 近世後期の薪炭輸送 )
3. 学会等名 Plebeian Society and the Growth of Cities in ‘ Early Modern ’ Japan : Session 4 Urban Society in Edo
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 明治初期東京における浅草新町の社会 = 空間構造の再編過程に関する一考察
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会国際学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 明治初期東京における乞食の生存と統制
3. 学会等名 環東アジア研究ワークショップ「近世・近代環東アジア地域の周縁的集団と史料」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ジョン・ポーター
2. 発表標題 Panhandling, Subsistence, and Poverty Management in Meiji Tokyo
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2017 Annual Conference
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 塚田孝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 花伝社	5. 総ページ数 314
3. 書名 日本近世の都市・社会・身分	

1. 著者名 塚田 孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 354
3. 書名 シリーズ三都 大坂巻	

1. 著者名 吉田 伸之編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 349
3. 書名 シリーズ三都 江戸巻	

1. 著者名 杉森 哲也編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 359
3. 書名 シリーズ三都 京都巻	

1. 著者名 馬学強・塚田孝主編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 471
3. 書名 中日城市史研究論集	

1. 著者名 塚田孝・町田哲・三田智子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	5. 総ページ数 176
3. 書名 日本近世の都市社会と史料（三都科研報告書）	

1. 著者名 杉森 哲也編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 268
3. 書名 日本の近世	

1. 著者名 ダニエル・V・ボツマン、塚田 孝、吉田伸之編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 248
3. 書名 「明治一五〇年」で考える 近代以降期の社会と空間	

1. 著者名 塚田孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪市立大学文学研究科都市文化研究センター	5. 総ページ数 140
3. 書名 近世巨大都市の社会構造と史料（三都研究会国際シンポジウム報告書）	

1. 著者名 池 享、櫻井 良樹、陣内 秀信、西木 浩一、吉田 伸之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160
3. 書名 みる・よむ・あるく 東京の歴史4 地帯編1	

1. 著者名 池 享、櫻井 良樹、陣内 秀信、西木 浩一、吉田 伸之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160
3. 書名 みる・よむ・あるく 東京の歴史5 地帯編2	

1. 著者名 池 享、櫻井 良樹、陣内 秀信、西木 浩一、吉田 伸之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160
3. 書名 みる・よむ・あるく 東京の歴史6 地帯編3	

1. 著者名 塚田 孝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 大坂 民衆の近世史	

1. 著者名 池 享、櫻井 良樹、陣内 秀信、西木 浩一、吉田 伸之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160
3. 書名 みる・よむ・あるく 東京の歴史2 通史編2	

1. 著者名 塚田孝・八木滋編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター	5. 総ページ数 163
3. 書名 近世大坂における神社と都市社会（三都研究会円座報告書）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉森 哲也 (Sugimori Tetsuya)  (20226468)	放送大学・教養学部・教授  (32508)	
研究分担者	吉田 伸之 (Yoshida Nobuyuki)  (40092374)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授  (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森下 徹 (Morishita Toru)  (90263748)	山口大学・教育学部・教授  (15501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐賀 朝 (Saga Ashita) (40319778)	大阪市立大学・文学研究科・教授  (24402)	
研究協力者	八木 滋 (Yagi Shigeru) (70311446)	公益財団法人大阪市博物館協会・大阪歴史博物館・学芸員  (84413)	
研究協力者	飯田 直樹 (Iida Naoki) (10332404)	公益財団法人大阪市博物館協会・大阪歴史博物館・学芸員  (84413)	
研究協力者	町田 哲 (Machida Tetsu) (60380135)	鳴門教育大学・学校教育研究科(研究院)・准教授  (16102)	
研究協力者	神田 由築 (Kanda Yutsuki) (60320925)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  (12611)	
研究協力者	後藤 雅知 (Gotou Masatoshi) (50302518)	立教大学・文学部・教授  (32686)	
研究協力者	ポーター ジョン (Porter John) (30572614)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・講師  (12603)	
研究協力者	三枝 暁子 (Mieda Akiko) (70411139)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授  (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齊藤 紘子 (Saitou Hiroko) (80736942)	大阪市立大学・文学研究科・准教授  (24402)	
研究協力者	三田 智子 (Mita Satoko) (80713106)	就実大学・人文科学部・講師  (35307)	
研究協力者	ボツマン ダニエル (Botsman Daniel)	イエール大学・教授	
研究協力者	エーラス マーレン (Ehlers Maren)	ノースカロライナ大学シャーロット校・准教授	
研究協力者	バルディ ヤニック (Bardy Yannick)	リール大学・准教授	
研究協力者	張 智慧 (Zhang Zhihui)	上海大学・副教授	
研究協力者	馬 学強 (Ma Xueqiang)	上海社会科学院・歴史研究所・研究員	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 国際シンポジウム「巨大都市の社会構造と史料 上海と大阪を中心に」（大阪市立大学・（国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業）総括シンポジウム と共催）	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

国際研究集会 国際小円座「近世巨大都市の身分的周縁 大坂と江戸」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際円座 近世・近代巨大都市の比較史 史料と社会	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Plebeian Society and the Growth of Cities in 'Early Modern' Japan (シンポジウム 「都市の巨大化と民衆世界」)	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------